

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ  
臨床研究へのご協力のお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

Chemotherapy induced anemia における鉄剤の有効性に関する検討

1. 対象となる患者さん

2020年1月1日～2027年12月31日の間に当院で婦人科癌(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、卵管癌、腹膜癌)に抗癌剤治療による貧血に対して、経口鉄剤または静注鉄剤を使用した患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 産婦人科科 川口 龍二

3. 研究の目的と意義

癌化学療法による貧血は抗癌剤による一般的な有害事象のひとつです。しかし、本邦では重度の貧血に対しては赤血球製剤の輸血で治療されますが、軽度から中等度の貧血については臨床的に重要でないと考えられ、無治療となることが多いの現状です。しかし、癌化学療法中の貧血は患者のQOL(Quality of life)を低下させるだけでなく、抗癌剤の減量、延期、休薬など抗腫瘍効果の低下にも影響を与えるため、貧血を改善させることは重要と考えられます。わが国の現状においては貧血に対して使用可能な薬剤は鉄剤しかありませんが、その有効性に関するわが国のデータは少ないとされています。そこで、癌化学療法による貧血に対する鉄剤の有効性について検討を行うことを目的といたしました。この研究の成果は、婦人科癌により貧血を生じた患者さんの貧血改善と輸血回避に繋がることが期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、抗癌剤による貧血に対する鉄剤(経口鉄剤、静注鉄剤)の有効性と抗癌剤治療の減量・休薬・延期などが不要になるかを

検討いたします。

## 5. 使用する情報

診療情報：診断名・年齢・婦人科癌における抗癌剤投与中の血液検査データ（ヘモグロビン値、鉄値、フェリチン値、総鉄結合能）。

## 6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

## 7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2028年3月31日

## 8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

## 9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 産婦人科 川口 龍二

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：kawaryu@naramed-u.ac.jp